

## 短大特任教員教育研究業績書

平成30年4月4日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
竹内 吉和	たけうち よしかず	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・ <b>講師</b> ・助教	Ⓐ・女

## 担当科目名

保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ、教育相談

## 学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
昭和 53(1978)年 4 月	広島大学 総合科学部 総合科学科 入学	
昭和 57((1982)年 3 月	広島大学 総合科学部 総合科学科 卒業	教養学士
平成 3(1991)年 4 月	広島大学 法学部 法律学科 入学	
平成 7(1995)年 3 月	広島大学 法学部 法律学科 卒業	学士(法学)
平成 10(1998)年 4 月	広島修道大学大学院 法学研究科 国際政治学専攻(修士課程) 入学	
平成 12(2000)年 3 月	広島修道大学大学院 法学研究科 国際政治学専攻(修士課程) 修了	修士(国際政治学)
平成 12(2000)年 4 月	広島市立大学大学院 国際学研究科 博士後期課程 教育経営学専攻 入学	
平成 18(2006)年 3 月	広島市立大学大学院 国際学研究科 博士後期課程 教育経営学専攻 単位取得満期退学	
平成 26(2014)年 4 月	安田女子大学大学院 文学研究科 教育学専攻 臨床心理学コース 入学	
平成 28(2016)年 3 月	安田女子大学大学院 文学研究科 教育学専攻 臨床心理学コース 修了	修士(文学)

## 教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
広島市立中学校	昭和 57 年 4 月 ～平成 14 年 3 月	教諭(数学科)
広島市立養護学校	平成 14 年 4 月 ～平成 17 年 3 月	教諭(障害児教育)
広島市教育委員会 学校教育部 指導第一課 特別支援教育室	平成 17 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	主任指導主事
広島市立特別支援学校	平成 21 年 4 月 ～平成 26 年 3 月	教諭(特別支援教育)
竹内発達支援 Co.	平成 26 年 4 月 ～現在	代表(発達障害者支援事業)
飛鳥未来高等学校	平成 27 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	非常勤講師(公民科)
広島医療秘書こども専門学校	平成 27 年 4 月 ～現在	非常勤講師 「子育て心理学」「ストレスマネジメント」「カウンセリング」
近畿大学豊岡短期大学 通信教育部	平成 27 年 4 月 ～平成 28 年 3 月	非常勤講師「教育心理学」
近畿大学豊岡短期大学 通信教育部	平成 29 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	非常勤講師「保育相談支援」「保育・教職実践演習」
小田原短大	平成 28 年 4 月 ～現在	保育学科通信教育課程 講師

## 所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
-----	------	-----------------

日本LD学会	平成14年4月～現在	
日本特殊教育学会	平成17年4月～現在	
日本心理臨床学会	平成26年4月～現在	
日本保育者養成教育学会	平成28年10月～現在	
社 会 活 動 等		
名 称	活動期間	活 動 内 容
広島リビングカルチャーセンター講師	平成26年4月～現在	月に1回一般の市民対象に発達障害と教育心理学や発達心理学、カウンセリングについて基礎研修を講義している。
地域の情報誌『まると安佐南&安佐北』での子育てコラム掲載	平成28年4月～平成28年12月	月に1回一般の市民対象に配布される地域情報誌で子育てに関するコラムを掲載した。
広島市教育委員会特別支援教育専門家チーム委員	平成21年4月～平成26年3月	広島市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校での巡回相談
NPO法人 日本インクルーシブ教育研究所アドバイザー	平成26年4月～現在	発達障害者への支援、理解啓発の講演会の講師
広島市教育委員会幼児教育アドバイザー	平成29年4月～現在	文部科学省委託事業（広島市教育委員会から委嘱）として広島市域の公私立幼稚園、保育園への指導助言を実施
広島市教育委員会特別支援教育専門家チーム委員	平成29年4月～現在	広島市教育委員会から委嘱を受けて、広島市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校での巡回相談を実施
（平成29年度実施の主たる講演） 1. 広島市立井口台中学校 職員研修会講師	平成29年4月、5月	通常学級全学級、特別支援学級、ふれあい教室の巡回を実施したうえで個々の生徒について理解と支援の方法についての質問に答える形での講演を行ったうえで、支援を実際行ってもらい経過を5月に観察、助言を行った。
2. 広島市立戸坂中学校 職員研修会 講師	平成29年4月	通常の学級に在籍する障害のある生徒の教育課程と支援の方法についての講演
3. 社会福祉法人 かしの木 職員研修会 講師	平成29年4月	障害のある利用者について教育機関、医療機関、行政等との連携の在り方についての講演
4. 広島市立井原小学校 児童対象講演会 講師	平成29年4月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業を実施した。
5. 学校法人上野学園（会計・コンピュータ・ビジネス・語学・美容・公務員など7校の専門学校）合同職員研修会 講師	平成29年5月	障害のある学生やコミュニケーションの苦手な学生との関わり方や支援の方法についての講演
6. 広島市立亀山南小学校 PTA講演会 講師	平成29年5月	発達障害等配慮の必要な子どもを育てるにあたって学校や支援機関との連携の在り方についての講演
7. 広島市立久地小学校 児童対象講演会 講師	平成29年5月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業を実施した。
8. 広島市西区民生委員・児童委員合同研修会 講師	平成29年5月	発達障害についての理解と支援についての講演

9. 東広島市立寺西小学校 PTA講演会 講師	平成 29 年 5 月	発達障害についての理解と支援と学校との連携の在り方についての講演
10. 広島市立福木幼稚園 職員研修会 講師	平成 29 年 5 月	障害のある幼児の教育課程と支援の方法についての講演
11. 広島市立川内小学校 児童対象講演会 講師	平成 29 年 5 月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業を実施した。
12. 愛知県愛知郡東郷町 指導保育士合同研修会 講師	平成 29 年 6 月	障害のある幼児の教育課程と支援の方法についての講演
13. 広島県高等学校養護教諭研究大会 講師	平成 29 年 6 月	不登校、学校への不適応と発達障害との関連や支援のあり方についての講演
14. 広島市立長東西小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 6 月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業の創造についての講演
15. 広島県東部私立保育園合同研修会 講師	平成 29 年 6 月	障害のある幼児の教育課程と支援の方法についての講演
16. 広島市立緑井小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 6 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
17. 広島市立矢野南小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 6 月	通常の学級に在籍する障害のある幼児の教育課程と支援の方法についての講演
18. 広島市立井口台小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 6 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
19. 広島市立南観音小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 6 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
20. 広島市立梅林小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 7 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
21. 広島市立祇園小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 7 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
22. 広島市立井口台中学校 職員研修会 講師	平成 29 年 7 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
23. 広島市立白木中学校 校区小中学校職員合同研修会 講師	平成 29 年 7 月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法と焼酎の連携についての講演
24. 広島市立大塚小学校 職員研修会 講師	平成 29 年 7 月	通常の学級に在籍する障害のある生徒の教育課程と支援の方法についての講演

25. 広島市立高南小学校 職員研修会 講師	平成29年7月	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の教育課程と支援の方法や焼酎の連携の方法についての講演
26. 広島市立吉島東小学校 職員研修会 講師	平成29年7月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
27. 広島市立仁保小学校 職員研修会 講師	平成29年8月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
28. 広島市立中広中学校 職員研修会 講師	平成29年8月	通常の学級に在籍する障害のある生徒の教育課程と支援の方法についての講演
29. あさひ幼稚園 父親対象講演会 講師	平成29年8月	家庭教育における父親の役割と子育てに対する協力の仕方についての講演
30. 広島市立仁保小学校 職員研修会 講師	平成29年8月	通常の学級に在籍する障害のある児童の教育課程と支援の方法についての講演
31. 広島市立安北小学校 職員研修会 講師	平成29年8月	通常の学級に在籍する障害のある生徒の教育課程と支援の方法についての講演
32. 愛知県名古屋市長古屋情報専門学校 職員研修会 講師	平成29年8月	障害のある学生やコミュニケーションの苦手な学生との関わり方や支援の方法についての講演
33. 神戸市立神戸青陽須磨支援学校 職員研修会 講師	平成29年8月	特別支援学校に在籍する障害のある児童生徒の進路指導の在り方についての講演
34. 広島県江田島市保育士合同研修会 講師	平成29年9月	障害のある幼児の教育課程と支援の方法についての講演
35. 広島市中野小学校 職員研修会 講師	平成29年9月	障害のある児童やコミュニケーションの苦手な同僚との関わり方や支援の方法についての講演
36. 広島市立中学校研究会 講師	平成29年9月	障害のある生徒の教育課程と支援の方法についての講演
37. 広島市私立幼稚園連合会 研究会 講師	平成29年10月	障害のある幼児との関わり方とコミュニケーションの苦手な同僚との意思疎通のとり方や支援の方法についての講演
38. 広島市立安東小学校 PTA講演会 講師	平成29年10月	合理的配慮と障害者差別禁止法の意義と実践についての講演
39. 広島市東野小学校 児童対象講演会 講師	平成29年10月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業を実施した。
40. 福島県南相馬市特別支援教育講演会 講師	平成29年10月	合理的配慮と障害者差別禁止法の意義と実践についての講演
41. 広島市立長東西小学校 児童対象講演会	平成29年10月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業を実施した。

講師		
42. 広島市立井原小学校 児童対象講演会 講師	平成29年10月	多様性の尊重という観点から障害のある級友との関わりについて考える授業を実施した。
43. 山口県岩国中央公民館 教育講演会 講師	平成29年10月	合理的配慮と障害者差別禁止法の意義と実践についての講演
44. 広島市立長束西小学校職員研修会講師	平成29年11月	通常学級全学級、特別支援学級、ふれあい教室の巡回を実施したうえで個々の生徒について理解と支援の方法について担任の質問に答える形での講演を行った。
45. 広島市立大町保育園職員研修会講師	平成29年12月	障害のある幼児との関わり方とコミュニケーションの苦手な同僚との意思疎通のとり方や支援の方法についての講演
46. AICJ 中・高等学校 PTA 講演会	平成29年12月	家庭教育における親の役割と子育てに対する協力の仕方について並びに進路選択の考え方についての講演
47. 広島市立三入中学校区小中学校職員研修会講師	平成29年12月	不登校、学校への不適応と発達障害との関連や支援のあり方についての講演
48. 三育幼稚園職員研修会講師	平成30年1月	各学級の巡回を実施したうえで個々の幼児について理解と支援の方法について担任の質問に答える形での講演を行った。
49. 広島市人権啓発講座講師	平成30年2月	発達障害者支援法を受け、適切な雇用機会の確保、個々の発達障害者の特性に応じた雇用管理の方法などを解説した。特にコミュニケーションが苦手な人たちが能力を十分に発揮できる職場にするためにはどのような支援があるかを具体的に示した。
50. 広島県専修学校各種学校連盟主催研修会講師	平成30年2月	専門学校の学生の中で、読み書き計算などにおいてLDの様相を見せるものや落ち着きがない、忘れ物が多いなどADHDの様相を見せるもの、コミュニケーションや友人関係の苦手さをもつASDの様相を見せるものに対する理解と支援の方法について解説した。参加した専門学校には工業系、福祉系、歯科技工士など医療系、アニマルケアなど多種多彩であったが、座学、実習に分けて具体的に支援の方法を示した。

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校1級普通免許状(数学・社会)取得	昭和57年3月	広島県教育委員会
高等学校2級普通免許状(数学・社会)取得	昭和57年3月	広島県教育委員会
養護学校教諭1種免許状取得	平成3年3月	京都府教育委員会
盲学校教諭2種免許状取得	平成3年10月	広島県教育委員会
日本体育協会指導員(水泳)資格取得	平成7年4月	日本体育協会
聾学校教諭2種免許状取得	平成9年10月	広島県教育委員会
日本障害者スポーツ中級指導員資格取得	平成11年4月	日本障害者スポーツ協会

中学校教諭専修免許状(社会)取得	平成12年3月	広島県教育委員会
高等学校教諭専修免許状(公民)取得	平成12年3月	広島県教育委員会
学校図書館司書資格取得	平成14年3月	文部科学省
特別支援教育士資格取得	平成19年4月	財団法人 特別支援教育士資格認定協会
日本評価学会学校評価員資格取得	平成20年4月	日本評価学会
特別支援教育士スーパーバイザー資格取得	平成22年4月	財団法人 特別支援教育士資格認定協会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 『発達障害と向き合う』	単著	平成24年4月	幻冬舎ルネッサンス新書	<p>発達障害について特別支援教育学、発達心理学や教育心理学、臨床心理学の成果を踏まえて解説した本で、東京学芸大学、福岡教育大学等で指定図書となっている。</p> <p>第一章で幼児期・学童期の発達について解説した。</p> <p>第二章で発達障害の基礎的内容を解説し、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性および心身の発達について解説した。さらに幼児、児童及び生徒の心理的アセスメントの考え方と方法について解説した。</p> <p>第三章では認知や記憶と学習の関係を解説し、学校教育との関係について解説した。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解することと就学相談の方法について解説した。</p> <p>第四章以降においてカウンセリングや相談活動について解説しているものである。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の中でも診断が出ていないいわゆる障害はないが特別の教育的ニーズの必要な幼児児童生徒の学習や生活上の困難点と対応、特に相談の在り方や支援機関の利用の仕方について詳述している。総頁数 255 頁</p>
2 『障害のあるこのための算数・数学』	共著	平成26年2月	東洋館出版	<p>特別支援教育学、教育心理学の理論を背景に学びについて解説している。発達障害や知的に遅れのある児童生徒は、その特徴として、認知機能の弱さやアンバランスさがある。さらにこの弱さのために運動機能にも大きな影響を及ぼす。このような特性を持つ児童生徒のための算数・数学の教材と指導方法について解説したものである。見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総動員するような教材を紹介し、総動員するような指導方法を具体的に示した。</p> <p>本人担当：時間・時刻[特別支援学校・高等部]「○分後に着きます」着くのは何時？</p>

				<p>6 頁。pp. 150-155</p> <p>編者 全国特別支援学級設置学校長協会、全国特別支援学校知的障害教育校長会、共著者 大南英明、吉田昌義他</p>
3 『発達障害を乗り越える』	単著	平成 26 年 4 月	幻冬舎ルネッサンス	<p>『発達障害と向き合う』の続編である。幼児教育、学校教育、いじめ、就職、結婚等について解説している。特に子育て支援について、発達障害の子どもを持つ母親は周りのサポートが不十分なまま追い詰められている状況を分析し、臨床心理学の知見を基に親との面接や相談で何に気をつけどういう観点で相談を進めればよいかについて解説している。幼児期に気づくことの大切さや幼児期に対応を始めることの重要性を書いている。</p> <p>障害者差別禁止法について解説し、合理的配慮の思想的背景や実際の方法について例示して解説している。</p> <p>学校教育や幼児教育が果たす役割は大きく、特別な配慮の必要な幼児児童生徒が学習活動に参加して成功体験や達成感を実際に経験することにより自己肯定感を持つことの重要性について述べている。</p> <p>第3章では発達障害といじめの関連性について述べたが、発達障害といじめの関連性高いと言える。しかも、学校と、家庭の連携が満足にできていないと、発達障害者が不登校に至ってしまう可能性も高いと言える。</p> <p>本人の努力だけでなく、学校と家庭の連携も必要であることを強調した。</p> <p>総頁数 303 頁</p>
4 『実践 発達障害を乗り越える 自分らしさを見つけて育むワークノート』	単著	平成 26 年 7 月	幻冬舎ルネッサンス	<p>チェックシートを使って自分の特性をつかみ、課題解決をする方法についてのワークノートである。認知行動療法の理論に基づいている。認知の凹凸に気づかれずに通常の教育しか受けられない子どもたちは、自己肯定感を消失させ、学習への意欲も失う。支援の意味は自立を目指したものでなければならず、自立を目指した支援は実態に応じて肯定感を持たせるようなものでなければならない。幼児期に支援は開始されなければいけないことを解説し、具体的に支援や助言の仕方などについて示したものである。総頁数 111 頁</p>
5 『発達障害が少年犯罪の原因ではなかった』	単著	平成 29 年 11 月	ザメディアジョン	<p>本書では特に幼児期の体験や受けてきたしつけの重要性を強調し、公的な幼児教育の在り方に言及した。</p> <p>「発達障害」そのものが原因で犯罪を引き起こすのではなく、障害を持つ彼らを取り囲む大人であり、地域であり、社会が大きな要因であるように思えない。</p>

				1 章では、少年犯罪の現状、近年の傾向を探る。2 章では、「発達障害」という障害について説明し、その種類や症状を紹介する。3 章では、加害少年の精神鑑定結果・置かれていた環境などから、少年を凶悪な犯罪へと駆り立てた社会を究明していく。4 章では、事件を通して明らかにされた犯罪へと繋がる可能性のある危険因子を特定し、発達障害児を「犯罪者」にさせてしまう社会を解明する。少年の出産から幼児期の家庭環境や受けてきた幼児教育に主眼を置いて分析を試みている。さらに小中学校期や高校大学での経験や親とのやりとりを分析している。総頁数 389 頁
(学術論文) 1 「中学校における特別支援学級担任が教授できる教科と教職員免許に関する法解釈についての一考察」	単著	平成 21 年 7 月	『LD 研究』第 18 巻 第 2 号	<p>特別支援学級担任が教授できる教科と教員免許法等の関係についての法解釈について教育心理学、教育心理学、臨床心理学等心理学の知見を基に学習機能との関係で考察したものである。現在、中学校の特別支援学級の担任となるためには、中学校教諭普通免許状で足りるのであるが、特別支援学校教諭普通免許状の取得をすることは、知的障害者等の学級の授業において、所有免許状の教科以外の教授を可能とさせるばかりでなく、特別支援学級担任の専門性の向上という点で意味を持つ。専門性の理解は、心理学的見地からの考察をすることにより明確になる。</p> <p>平成 30 年度からは高等学校で通級による指導が開始されるが、通級による指導とはどのようなものなのか、通級による指導の教育法制上の根拠は何かを分析したうえで、通級による指導を行う教員の免許取得の現状と特別支援教育の専門性に鑑みての今後の教員免許の制度上の在り方について現状を分析し、論点を明確にして批判検討し考察している。pp. 165-173</p>
(その他) 1 文部科学省特別支援教育関係ボランティア活動事例集	共著	平成 19 年 3 月	文部科学省	<p>・身体的な障害や発達障害だけでなく、心理的な課題のある幼稚園、小中学校、高等学校の在籍する幼児児童生徒へのボランティアの活動について子どもとどのように関わるか等について心理学等の成果を踏まえて紹介した。広島市教育委員会で主管していた特別支援教育アシスタント事業の部分を担当した。2 頁</p>
2 日本 LD 学会第 24 回大会研究発表「非行と発達障害」	単著	平成 27 年 10 月	日本 LD 学会	<p>・24 の発達障害のある少年の犯罪の裁判記録等を分析し、生育歴や家庭環境、学校教育等の足跡を追って、非行少年の心理的特性及び環境要因について考察した。臨床心理学の成果を踏まえての探索的研究である。幼児期、学童期、青年期に親との良好な関係が築けなかったり、苛めたもしくは苛められたりしたといった体験の有無、不登校体験・引きこもり体験、インターネットやゲームへの埋没といった特</p>

				徴があることがわかった。今後の学校教育や家庭教育、社会の在り方が問われることを考察した。
3 「子どもとの向き合い方」	単著	平成 29 年 3 月	ザメディアジョン 『まるごと 2016 No. 114』	乳幼児期は「人としての基礎」の構築の時期であり、次の 8 点についての留意事項を医学や生理学、発達心理学や教育心理学の研究成果から解説した。 ①早起き・早寝 ②生活リズム ③食育 ④「動くこと」の基礎を育てる ⑤遊び ⑥感覚統合 ⑦親子の絆 ⑧意欲の形成 特に「生活リズムと朝ごはん」と排世」「乳幼児の体の動きと遊び」「愛着と人間関係の理解の発達」「身体状況への配慮と同時に意欲の形成に向けた働きかけ」についての重要性を解説している。 pp. 11-21
4 「ワークショップをやってみましょう自分らしさを見つけて育む実践をやってみよう」	単著	平成 29 年 6 月	(株)恵心社『クオレ 2017vol. 3』	幼稚園教諭、保育士等に対して幼児の特性をつかむ実態把握に応じた教育相談と保護者支援、カウンセリングについての基礎理論の理解と心理教育としてのワークショップの実践方法について解説した。 さらに幼児の発達や心理的特徴に応じた教育や保護者に対する相談の具体例を挙げて解説している。 「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「計算する力」「推論する力」等学習面での困難性、「不注意性」「多動性—衝動性」等行動面での困難性、「対人関係の弱さやこだわり」等社会性での困難性についての各チェックリストと使用方法についても解説した。実際にワークショップとして使用できる。 幼児の特性に応じた支援は、保護者への適切な助言や教育相談を前提としている。実態把握の上にもどのように教育相談を行い、いかに支援を行うかについて具体的に示している。 pp. 15-22
その他（表彰等） 広島市社会福祉協 議会奨励賞受賞		平成 7 年 10 月	長年の障害児のある児童生徒への水泳教室における指導により表彰される。	